

自然感

くすのき



yumi



季節感

夏八月、山の湿った藪に、ひっそりと花を付け十月末ころから赤い実を付ける。甘酸っぱくとても美味しい

『フユイチゴ』

平成19年11月2日

朝倉郡筑前町夜須高原

大塚俊樹



熊洞居人独言

#20

前号の続き

宝満山（竈門山）が歴史に登場するのは、平安時代初頭の西暦803年のことである。「扶桑略記」という書物に、この年、最澄渡海祈願のため大宰府竈門山寺に薬師仏をつくる、と記されている。また、「続日本後記」には、840年に大宰府竈門神に従五位上を授くと記されている。この時代、既に宝満山は都にも知られた山であったことが判る。この時代、竈門山は大宰府政庁の鬼門を守る山として重要な地位を占めていた。神の山として崇められていた。神は山中の巨岩や巨木に宿っていた。これらの神々を祀るため、修験者や僧侶を始め多くの人々が山中に住み、神々と寝食を共にしていたと思われる。鎌倉～室町時代には山中に370の坊があったと記録されており、江戸時代には25の宿坊について名称と場所が記録されている。これらの宿坊付近には当主である僧（山伏）は勿論、家族や使用人達も住んでいた。付近の仏閣や社（やしろ）を維持管理し、近隣の林や茅場を日々の生活のため維持していた。1つの宿坊の人数は、使用人も含めると少なくとも5～10人は居たのではなかろうか。人々が生活するためには里山（雑木林や茅場など）が必要であった。

奥村玉蘭の「筑前名所図絵」に描かれている竈門山図から推察すると、1800年代初頭の宝満山は、誇張はあるものの岩峰を中心に描かれており、全山がほぼ里山景観であったことが判る。山中に生きる人々の生活を維持するため、かなりの面積の里山が必要であったと推察できる。但し、山中には点々と巨樹・巨木と思われるものが描かれており、神の住み処であるこれらの木々は厳重に保護されていたと思われる。江戸時代中期につくられた「竈門山水帳」（山の管理の記録）によると、松（アカマツ）、榎（トドマツ＝モミと思われる）、杉、桜（ヤマザクラ）、椎、タフ（タブノキ）の六木は厳重に保護されている。これらの樹木は寺社を取り囲む鎮守の森の構成種であったと思われる。クマの50年前の記憶でも、山中の至る所で雑木林が生育していた。

鎮守の杜シリーズ・西公園光雲神社観察会のお知らせ

福岡市中央区西公園にて『鎮守の杜シリーズ 西公園光雲神社観察会』を実施します。

日時：12月8日（土）13時から15時半頃まで

集合場所：光雲神社前（公園内に無料駐車場有ります）

13時集合

西公園は、福岡市営地下鉄大濠公園駅下車歩いて15分です。また、西公園内には無料駐車場も有ります。（ナイス福岡事務局 田村耕作）



～6月23日の観察会での様子～

事務局からのお知らせ

この、NAIS福岡会報『自然感くすのき』は、NAIS福岡ホームページにも毎号掲載しています。（<http://www.kurabird.com/>（自然案内舎（有）クラブードHP）のトップページ下方にある、「福岡県自然観察指導員連絡協議会」からお入り下さい。）

現在、この会報は、全会員に郵送しておりますが、もし、「ホームページの方で見るので、郵送分は必要が無い」という方がいらっしゃいましたら、事務局までお知らせ下さい（連絡先は、会報奥付をご覧ください）。順次対応させていただきます。

なお、この場合、郵送費用はホームページ維持費に充てますので、ご了承下さい。

九州自然協議会 ご案内

自然環境に県境はありません。九州は一つです。九州の自然観察指導員が集まり、研修を積み、交流を深める集いが、年に1度の九州自然協議会です。今年は熊本県水俣市袋に集合です。

今回の研修テーマは「ツボカビ」。専門家をお呼びして、身近な環境に暮らしているカエルたちに迫っている脅威について、基本的なことから、私たちにできる対応までお聞きしたいと思います。

夜の交流会では、九州各県的话题を肴に、エンドレスで語り合しましょう。NACS-Jからも参加されますので、全国の話題もお聞きすることができます。

二日目の午前中は、豊かな海岸林の観察を予定しています。お誘い合わせの上ご参加ください。

日 時 2007年12月8日(土)～9日(日)

会 場 熊本県水俣市袋

グリーンスポーツ水俣 (0966-63-7811)

http://itp.ne.jp/contents/kankonavi/kumamoto/camp/kum_cam11.html

日程・内容(予定)

8日 13時 現地集合

13時30分～16時30分 研修会「ツボカビにどう対応するか」

講義1「ツボカビについて(仮題)」

講師 黒木俊郎先生(神奈川県衛生研究所)

講義2「熊本県の両生類事情(仮題)」

講師 (交渉中)(熊本県RDB両生類調査担当者)

18時～ 交流会(持ち込み歓迎)

9日 9時～11時 海岸林の観察会

グリーンスポーツ水俣は、とてもよい海岸林に囲まれています。カニやフナムシが暮らす森を歩きましょう。そのすばらしい森に、竹林が拡大中。どうしよう!? 皆で考えましょう。

12時 解散

宿 泊 テント・和室・研修室で寝袋泊

交通機関 肥薩オレンジ鉄道 袋駅から 車で5分程度

携行品 寝袋、マット、洗面用具、観察用具、マイカップ、差し入れ

参加費 3000円(1泊2食)

申し込み方法 「氏名、住所、電話番号、E-Mail アドレス、性別、年齢、所属している連絡会」を明記の上、メールかFAXで以下の連絡先にお申し込みください。

申し込み締め切り 11月25日(締め切り後も受け付けます。お問い合わせください)

申し込み・問い合わせ先

田畑清霧(自然観察指導員熊本県連絡会)

E-Mail tabata2007a@gmail.com FAX 0965-31-8446



日本野鳥の会福岡支部 主催

参加費：100円（中学生以下無料）

11/18日(日) 12/16(日)
天拝山探鳥会（筑紫野市）
時間：9:00～12:00
集合：天拝山歴史自然公園
問合せ：092-920-7112（山本勝）

11/24(土) 12/22(土)
久末ダム探鳥会（福岡町）
時間：8:00～11:00
集合：久末ダム多目的広場横駐車場（管理事務所下）
問合せ：0940-33-7846（高原和幸）

12/2(日)
今津探鳥会（福岡市西区）
時間：9:00～12:00
集合：玄洋高校西側道路
問合せ：092-891-9005（神園道男）
月例探鳥会

12/8(土)
大濠公園探鳥会（福岡市中央区）
時間：9:00～12:00
集合：ポート乗り場前
092-573-1827（森健児）

12/9(日)
和白海岸探鳥会（福岡市東区）
時間：9:00～12:00
集合：JR 和白駅前公園
問合せ：092-606-0012（山本廣子）

多々良川下流 11月3日（文化の日）
時間：10:00～12:00頃
集合：東部下水処理場駐車場
交通：西鉄バス松島5丁目下車
地下鉄貝塚駅下車
問合せ：092-603-1519

日本野鳥の会筑後支部 主催

参加費：100円（中学生以下無料）URL: <http://mamewari.blog.ocn.ne.jp/>



11/25(日)
濃施山公園（高田町）
時間：10:00～ 弁当必要
集合：公園内すいせん橋
問合せ：0944-58-1672（野田）



三国丘陵の自然を楽しむ会 主催

福岡植物友の会 主催

11/24(土)
時間：9:30～ ゆっくりしたい方は弁当持参。その後編集会議予定
集合：簡保レクセンター跡地正門
問合せ：092-920-3072（松永）
要：保険料・駐車場代（小銭）

報告
12月から九州歴史資料館の工事が始まります。工事期間は立ち入りできません。空の広い簡保跡地を見ることが出来るのは最後です。どうぞお越し下さい。

詳細は：092-947-6536（大吉博子）



和白干潟を守る会 主催

久留米の自然を守る会 主催

11/24(土)
守る会定例会議
時間：10:30～12:30
集合：和白干潟を守る会事務所
問合せ：092-606-5588（田中貞子）

11/24(土)
クリーン作戦と自然観察会
時間：15:00～17:00
集合：海の広場 駐車場なし
長靴・軍手があると便利
問合せ：092-661-1594（田辺）

11/25日(日) 第351回例会
秋のキノコ観察とキノコ汁
時間：9:30～14:30
集合：高良内幼稚園
（竹の子バス停下車、徒歩1分）
持ち物：マイカップ、マイはし、水筒、
参加費：300円
問合せ：0942-46-8622（古賀）
共催：久留米市農政部生産流通課

11/25(日) 第19回 和白干潟まつり
ラムサール登録をめざして。 11:00～15:10 和白干潟・海の広場
バードウォッチング、ネイチャーゲーム、干潟の生物観察、植物観察、コンサート、模擬店、写真展など。 参加無料 小雨決行・雨天中止

福岡市油山自然観察の森 主催

往復ハガキでの申込方法はハガキに「行事名・行事実施日・住所・氏名・年齢・電話番号」を記入の上、自然観察センターまでお送り下さい。

11/18(土)
秋色の森・自然かんさつハイキング
紅葉や木の実など、色とりどりの森を楽しく散策します。
時間：10:00～13:00
対象：一般
申込み：不要・9:30より受付
定員：なし 雨天実施

12/2(日)
親子森のクリスマスリースづくり
森の中でつるや木の実などを集め、リース作りを楽しみます。
時間：10:00～13:00
対象：4～15歳の子供とその保護者
申込み：往復はがきで11/24必着
定員：25人
参加費：300円（材料費込み）

問合せ：油山自然観察センター
参加費：100円
〒811-1355
福岡市南区松原夫婦石 855-1
TEL：092-871-2112
開館 9:00～16:30（月曜休館）



【小笹小学校5年「自然教室」～その1～

10月11日(木)、12日(金)背振少年自然の家周辺の森や谷で、5感をフルに使っての緊張感ある充実した体験学習となりました。その様子を報告します。

松下彩二 6月の鴻巣山観察に引き続いて小笹小学校の5年生と一緒に今度は背振少年自然の家の周りを観察してみました。前は「鴻巣の鳥班」の担当でしたが、今回は「(植物などから見た)森班」ということになりましたが、前回と同じ顔ぶれもあり、お互いに「どうして今度はこっち？」などと言いながら和やかに開始。前回は今回も鳥や昆虫といった「動くもの」の観察班の人気倍率が高らしく、抽選に漏れて「森班」に組み入れられた生徒が多数いたようです。

初日、2日目と別々のクラスでしたが、観察しやすいツリフネソウの花ではハナバチの訪花と花の形などから「それぞれにメリットのある深い関係」を考えてもらいました。国語の教科書で「サクラソウとトラマルハナバチ」という話を知っているらしく、「深い関係」の理解は上々のようでした。せっかくの良い視点でしたので、みんなが発見してくれる植物や虫の「深い関係推測」をひとつの軸に対話形式で盛り上がりました。おかげで命の繋がりのまとめも楽でした。

地球の長い歴史の中でそれぞれが深い関係のコンビでやって来た

それが上手く行ったものたちが今も生きている

だから、たとえ皆が嫌いな蛾や毒のある生き物でもいなくなると困るはず

大変良くできました。でも実は植物自体の知識に特に乏しい私が助かったのです。

小笹に帰ったらもう一度「小笹にはどんな生き物がいるのか」を「深い関係」からよく見直して下さいね。そうすれば次にまたどこかへ行った時に「違い」に気付くことでしょう。ということでお開き。

同じ森班担当となった鶴田さんには特にお世話になりました。その他先輩指導員の皆さんありがとうございました。また、いつも事務連絡関係の労をお取り下さっている田村さん、ありがとうございます。

山本弘子 最初はクモの糸も嫌がっていた女子がツマグロヒョウモンの幼虫を放す頃には「誰にも食べられずにちゃんと蝶に成れよ」となっていた。仲良く成ればみーんな可愛くなるんだって事、分かってくれた？

田村耕作 とにかく体験、よく見る、触ってみる、中には味わう、という自然案内を心がけました。ヤマモのむかごとグミは少し味わってもらった。ツリフネソウの花の形と蜂との関係をよく観察することが出来た。また、その種の中で熟した種にそっと触れてみる事も勧めた。種が自らはじけた時の驚きには、案内のし甲斐があった。

重松 尚紀 今回は川班の担当になったので、脊振少年自然の家そばの川で観察を行いました。

まずは子供たちに小笹校区との環境の違いで気付いたことを聞きました。高さ(標高)、気温、山林と建物の面積、空気のきれいさなど色々な声がありました。それらの環境の相違点を踏まえてもらった後に、川に入り生きもの探しを行いました。

川に入るなり子供たちはすぐに夢中なり、歓声をあげながら色々な生きものを発見していました。岩陰にひそむ魚(タカハヤ)、石の裏にいたカゲロウやカワゲラ、ヒラタドロムシ、プラナリアなどの仲間、トビケラの巣などが見つかりました。男の子がサワガニを数匹捕まえていたので、雄と雌の違いを知っている子から他のみんなに「おなかの幅の違いで雄と雌が分かる」ことを紹介してもらいました。

その後は、兩岸の草地に注目してもらいました。鮮やかな赤が目立っていたミズヒキと水引きの話、くつつき虫のチヂミザサやヌスビトハギ、ツリガネソウの花の形やマルハナバチとの関係(子供たちは国語の教科書で学んでいたようです)と種子散布の方法、オオバコの種のしくみ、クモの巣の形や縦糸と横糸の違いなど、実際に触ったり、拡大鏡で観察しながら進めました。草地にいたエサキモンキツノカメムシは、背中模様がハートの形をしているように見えるため、女の子に人気でした。

短い時間でしたが、自然の不思議さや植物と動物の攻防やつながりの一端を伝えることができました。

鶴田義明 10月11日(木)、12日(金)森グループ(各々13名)は背振少年自然の家周辺の森で植物を中心に、スズメバチの観察や、初日にはマムシグサを試食するというハプニングもあり、5感をフルに使っての緊張感ある充実した体験学習となりました。

スズメバチがアブを捕らえているところや、マルハナバチがツリフネソウの花の中にすっぽり入り蜜を吸っている様子などは、子どもたちも固唾をのんで見守り圧巻でした。主に観察できたものは、ミズヒキ、ムカゴ、サンショウ、ケクロモジ、ゲンノショウコ、アオキ、ハマクサギ、ツリフネソウ、タラノキ、ヤツデ、アラゲハンゴンソウ、マムシグサなどの植物の外にニホンイモリ、ニホンアカガエル、アマガエル、サワガニ、バッタやコオロギの仲間などです。

その他にも、森の静かなところに入り「音いくつ」で鳥の声、虫の声や風の音などを聴き、沢の水の温度当てクイズや、クモの巣の観察など、テーマには事欠くことはなく、学校周辺では見かけないたくさんの植物や生き物たちにも出会えて、皆とても楽しそうでした。あっという間に時間となり、予定していた土壌生物の観察が出来なかったことを告げると、子どもたちは「もっとやりたい。」とすごく残念がっていました。

まとめでは、人と自然との関わり、森林の効用(緑のダム、地球温暖化防止など)、自然の生態系(物質循環)、危険な動植物など、子どもたちからの鋭い質問もあって十分に伝わったようです。

【小笹小学校5年「自然教室」】～その2～

マムシグサを試食???

これは最近あった小学校5年生の自然観察会時のハプニングです。

「あの植物は何ですか？食べられますか？」との質問があり、よく見るとマムシグサ。「これはサポニンという毒性の成分が強く食べられません。」と話しかけると「0君がさっき食べた。(2粒)」という声。口にすると舌の痺れや吐き気がするからと説明しながら、0君を探すと少しバツの悪そうな顔をして担任の先生の傍にいる。「口は痺れるか？」「今少し痺れています。」「吐き気は？」「もう吐きました。」との返事。お茶をたくさん飲ませ、胃の洗浄をさせながら様子を見るよう先生に頼み、「折角0君が貴重な体験をしたので...。」と全員でマムシグサをしっかりと観察し、口にはしてはいけないキノコ類の話や、そのフィールドの入口に鈴なりになっていたエゴノキの話などもして、勝手な行動は慎むよう注意する。その後は皆真剣な眼差しで聞き入り、このハプニングのおかげ(?)で自然の楽しさも厳しさも体感出来た有意義な観察会となりました。終了後、すっかりよくなった本人と担任の先生から「先生のお話の通りの症状でしたから、子どもたちも私も全く動揺も不安もありませんでした。」と、お詫びとお礼の言葉があって安心する。「以前、私も同じような体験をした。」と語ってくれる女の子もいました。

私たちの子どもの頃は、こういったことは日常茶飯事のことでしたが、今は靴や裾が濡れるだけでも親からのクレームが出る時代、的確な対処で望みたいものです。

危険な動植物を説明してからのスタートでしたが、自然体験が乏しい子どもたちは予想外の行動に出ることも多く、「野外では事故はおこるもの」として考えておくべきことを改めて実感。ムカゴなどを食する時は、有毒植物の話もしておく必要もありそうです。(命にかかわらない少々のリスクは体験学習のチャンスと心得ることも大切)この事例でも「子どもたちにとっては貴重な体験となり、マムシグサのことは一生忘れないでしょうね。」との先生の感想でした。

この時は6班に分かれ、一人の指導員のグループは13人でしたが、途中で二つのグループがバッティングし、26人が合流する形になって、一人ひとりに目が行き届かなくなったのは大きな反省点です。やはり、目配りできる範囲の人数(子どもの場合は10人前後)をキープすることは重要なポイントだと痛感しました。

野外活動では「安全の確保」と「楽しさ(冒険の要素)」は車の両輪です。私たち指導員はこの微妙なバランスを如何にコントロールするかが大きな課題といえるのではないのでしょうか。そのための知識習得は勿論ですが、やはり自らの自然体験を豊かにすることに勝るものはないように思えます。

こういったことは、いつどこで起きてもおかしくない事例ですので、いざという時、指導者自身が冷静に対処するためにも、ご参考になれば幸いです。(鶴田義明)



～ノスリ～



～ヤマアカガエル～



～生きもののつながりを
説明しました～

鎮守の杜シリーズ 糸島 桜井神社などの観察会報告

11月3日(土)糸島地区にて観察会を開催した。案内は、代表の冷川昌彦氏が担当で、福岡県が制作した里地里山ふれあいガイドシリーズ 糸島の自然を訪ねよう〔平成19年3月発行〕を用いた。当日は秋晴れ。JR筑肥線波多江駅に10時に集まり、挨拶後に観察会で重要な安全対策の話をした後、まず桜井神社に直行した。ここに直接見えた会員も含め14名での観察会でした。

簡単な自己紹介後、参加された方の縁で、桜井神社宮司さんから本殿や岩戸神社の話などの情報を聞くことができた。その後は、ニホンミツバチの巣を観察、ツルソバの花がいっぱい、この実もソバ粉に成るらしいが?、ミノムシに似た巣をもつヒロズコガの巣、クスサンのまゆはスカシダワラとも言うらしい(うまい表現だ)、アマチャヅルの実、コジイやスダジイの実、やまいものムカゴ、サカキの実、オガタマやムクロジの実、参加した会員からいろいろな解説を聞くことができた。また、境内のスギの大木の表面がムササビが利用したようなささくれが見られた。神社の建物にはテンカイタチもいるらしい。

シャシャンボの大木、この木がこの名前に落ち着くまで、少し時間と図鑑が必要でした。また、松葉が3本の松も1本有りました。

お昼は、隣接したお家の主である参加者のもてなしで、芝の庭をゆっくりと利用させてもらった。庭の堆肥の中には巨大な芋虫、カブトの幼虫も観察。冬の使者ジョウビタキも姿を見せてくれた。

午後は、二見ヶ浦を経て黒磯海岸へ移った。黄色の花、ツワブキ・ホソバワダンの花、ハマベノギクやダルマガクの薄紫や白の花が盛りでした。少し潮間帯の生きものの観察も行った。

近くの草地でクコの花を囲んで、今日の観察を振り返りました。参加者の声です。

- ・ 海岸の花が花盛り。
- ・ 名前にこだわらない観察会を心がけています。
- ・ 桜井神社の自然を堪能した。
- ・ 頭と体が疲れました。
- ・ ダルマガクとハマベノギクの違いが判明。
- ・ 感動しました。
- ・ 初めての桜井神社が良かった。
- ・ ダルマガクの群落が花盛りで良かった。

いろんな季節に見せ場あり。

- ・ 知的な娯楽に感動!
- ・ 参加して得した気分になりました。

まとめの報告 田字草



宮司さんから説明を受ける



みんなでのんびりお昼



黒磯海岸入り口

私の街の 小さな観察

私の家の玄関先に、かみさんが植えたスマレの鉢植えがありました。



8月の終わり頃、ツマグロヒョウモンの幼虫が8匹
せっせとスマレの葉を食べていました



そして、9月の7日、
ふと気付くと幼虫がスマレの茎に
頭を下にぶら下がっている。



次に気付いたとき、ぶら下がっていた幼虫は蛹の形でぶら下がっていて、
幼虫の抜殻が蛹の傍に引っかかっていた。



蛹を背中から観てみると、
銀色に輝くトゲトゲが5対見える。
これって何の意味があるのだろう。
食べられないためのおまじないか？

レポーターは、筑紫野市の「本のむし」でした。

福岡市環境フェスティバル 2007 に参加しました

10月27(土)28(日)、福岡市役所の西側広場や天神中央公園などで開催されました。ナイス福岡も自然と遊ぶための「野遊びの店」を出店しました。協力頂いた会員は2日間で延べ25名でした。

天神中央公園のアクロス山では、4回の自然案内を堀・鶴田両名を中心に展開し、延べ59名の参加が有りました。お店では、どんぐり遊び、クズの茎でムカデや籠、オナモミダーツ、竹デッポウや笛などで遊びを紹介しました。来店者は延べ500+位でした。

循環生活研究所が実施したくるくる村にも少し協力しました。お店の様子を画像で紹介します。詳しい様子は何回か分けて順次紹介していきます。(事務局員/田村耕作)

お店に立ち寄った人の感想

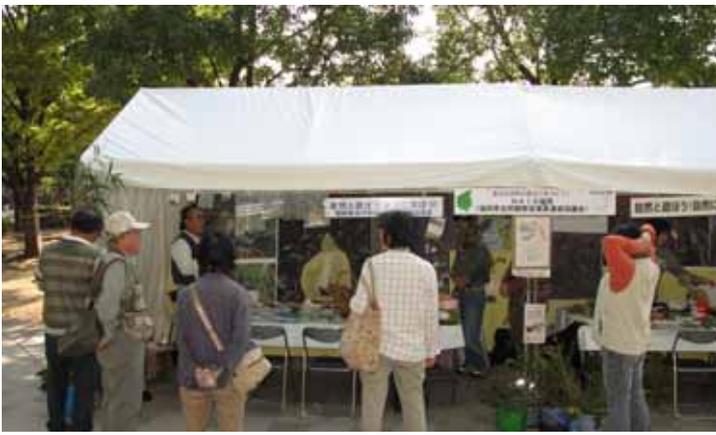
自然の中でのつるや木の実で楽しく遊べるのですね。地域の子に普及したらいいかなあと思った次第です。

有り難うございました。

小学校時代を思い出しました。なつかしいやら、楽しかった昔・・・主人を是非連れて来たいと思います。64才



~お店の様子 1~



～お店の様子 2～

これは何だろう!?



これは何だか
解かりますか?

《前回の解答》

「ミツバウツギ科ゴンズイの果実です。肉厚の赤い果皮が、熟すと裂開し、5ミリくらいの真っ黒な種が顔を出します。まるでカエルの顔のように見えませんか?! (9月30日上陽町撮影:本のむし)」

事務局からのお知らせ

インターネット掲示板に会員の皆様の書き込みをお願いします。
ナイス福岡のアドレスはこのページの一番下に表示しています。

会費振込について

それぞれの会員の皆様の会員期限をタックシール部分に明記してあります。各自ご確認の上、郵便局にて下記の郵便振替口座に振り込みをお願いいたします。なお、会計年度は6月から翌年5月末までです。

郵便振替口座:福岡県自然観察指導員連絡協議会 01760-9-15783 年会費:2000円

皆に知らせたいことはありませんか?

皆さんが行っている観察会やイベントの案内、自然保護に関する情報やご意見、お薦めの本の紹介などをお寄せ下さい。原稿は定例会の一週間前までに事務局にお送り頂くとその月の会報に載せることができます。皆さん情報をお待ちしています。

定例会に参加してみませんか?

本会の運営に関する打ち合わせや情報交換、会報の発送作業を原則として毎月第2金曜の18:00~20:00ごろまで自然案内舎(有)クラブにて行っています。

会員の方はどなたでも参加できるのでお気軽にお立ち寄り下さい。皆さんのおこしを心よりお待ちしております!

次回の定例会は、**12月14日(金)**午後6時より事務局で行います。12月号の原稿は、**12/3(月)**までに届くようにお願いします。なお、原稿を掲載するに当たっては編集担当にお任せ願います。

他団体の会報の紹介

- 自然観察指導員熊本県連絡会 自然観察 第119号(07.10.9)
- 久留米の自然を守る会 久留米の自然 第98号 平成19年10月1日
- 日本野鳥の会筑後支部 まめわり第79号 2007年11月1日
- 福岡県保険環境研究所 保環研ニュース第61号 2007.10

編集後記

2007年10/12定例発送会は、門司慶子・山本勝・鶴田義明・冷川昌彦・田村耕作が参加。KMから評判のマロンポテトパイ、HMから塩味のちんすこう(沖縄産)の差し入れに感謝。小野仁・山本弘子・田中健二・重松尚紀・松下彩二・大塚俊樹・藤川渡から欠席の連絡あり。天神中央公園にあるアクロス山標高60mも漸く赤や黄色の葉が少しづつ増えてきました。この山での観察会も評判だったようです。案内担当の堀・鶴田さん達お疲れ様でした。田字草

お問合せ: 福岡県自然観察指導員連絡協議会
(NAIS Fukuoka: The Nature Interpreter Society of Fukuoka)
代表: 冷川昌彦 / 事務局長: 小野 仁 /
編集: 田村耕作・山本勝・松永紀代子・吉田素子 / 会計: 宮原俊彦
〒810-0061 福岡市中央区西公園 8-17
自然案内舎(有)クラブ内 TEL & FAX: 092-732-7042
URL: <http://www.kurabird.com/>
掲示板 URL: <http://bbs9.fc2.com/php/e.php/~naisfukuoka/>

